

第1回 小中高等学校におけるモビリティ・マネジメント教育情報交換会 実施報告書

1. 開催概要

名 称	第1回 小中高等学校におけるモビリティ・マネジメント情報交換会
日 時	令和7年8月9日（土） 13:15 ～ 17:15
場 所	日本教育会館 会議室 707 号室（東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）
参加者数	30 名程度
参加費	無料
対 象	モビリティ・マネジメント教育に関心のある 小中高等学校教育関係者（教育委員会、教員）や自治体、事業者等
主 催	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
後 援	一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議

2. プログラム

13：15～	開会挨拶	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
13：20～	講演	①「モビリティ・マネジメント教育を学校で実践することの意義」 愛媛大学 社会共創学部 教授 松村 暢彦 氏 ②「モビリティ・マネジメント教育の実践例」 筑波大学 システム情報系 教授 谷口 綾子 氏
14：10～	模擬授業	フードマイレージまたは交通すごろくの体験
14：50～	取組事例の紹介	① 札幌市における小学校教員主体の MM 教育 認定 NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム 新保 元康 氏 ② 中学校（課外プロジェクト）における MM 教育 同志社中学校・高等学校 古城 郷 氏 ③ 中学校・高等学校における MM 教育 サレジアン国際学園世田谷中学高等学校 京 百合子 氏 ④ 滋賀県における自治体主導の MM 教育 滋賀県土木交通部交通戦略課管理係 主事 寺澤 朋紘 氏
16：00～	パネルディスカッション	「MM 教育の実践と普及に向けて」
17：15	閉会	
17：30～	意見交換	希望者のみ登壇者と参加者の意見交換（30 分程度）

3. 当日の様子

会場



開会挨拶



講演



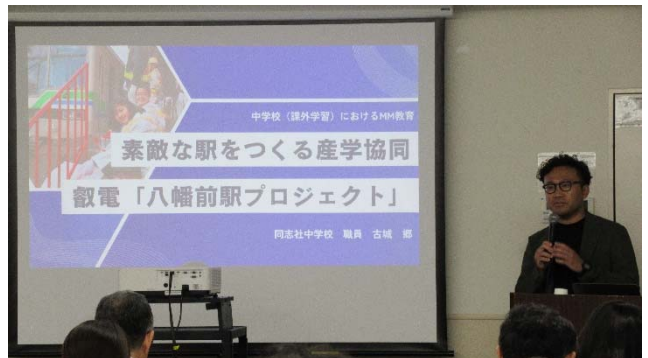
模擬授業（フードマイレージ）



模擬授業（交通すごろく）



取組紹介



パネルディスカッション



意見交換



4. 参加者へのアンケート結果

(1) 当日の参加者数

参加者数		28 名
内訳	学校関係者	7 名
	自治体職員	12 名
	交通事業者	4 名
	その他	5 名

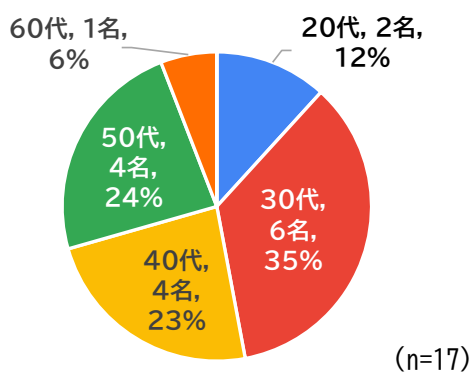
(2) アンケート回収数

アンケート回答者 17 名 (web : 6 名、紙 : 11 名)

(3) アンケート結果

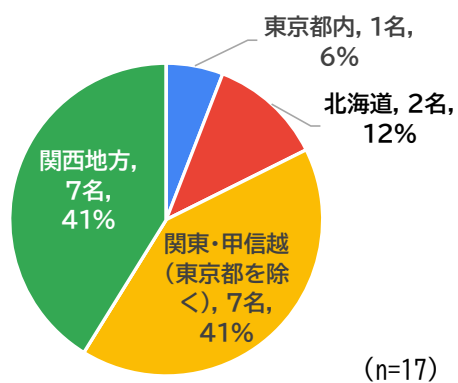
I. あなたご自身についてお聞きします。

Q1. 年齢



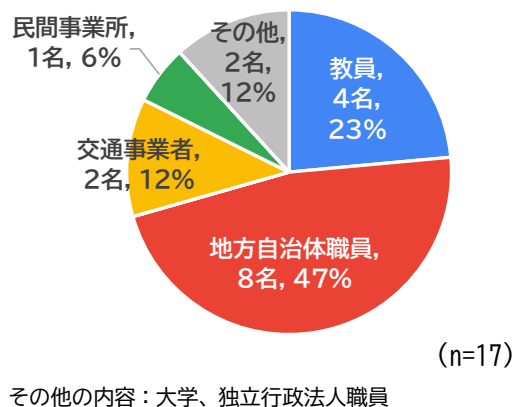
参加者は30代～50代が多くなっている。

Q2. お住まい



関東甲信越（東京都を除く）及び関西地方からの参加者が多くなっている。

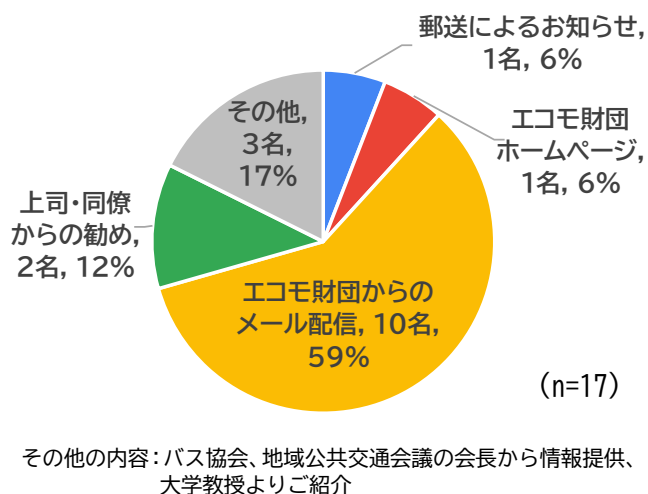
Q3. 職業



地方自治体職員、教員の参加者が多くなっている。

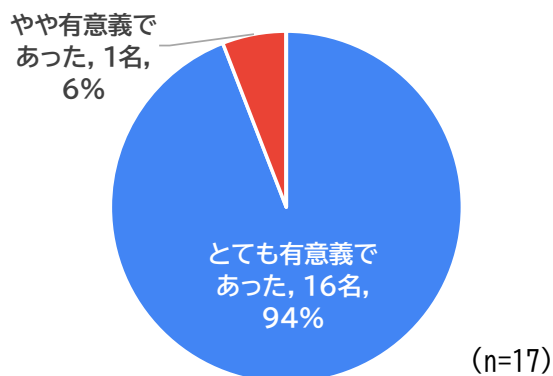
II. 本日の情報交換会についてお聞きます。

Q1. 本日の情報交換会について、何で知りましたか。



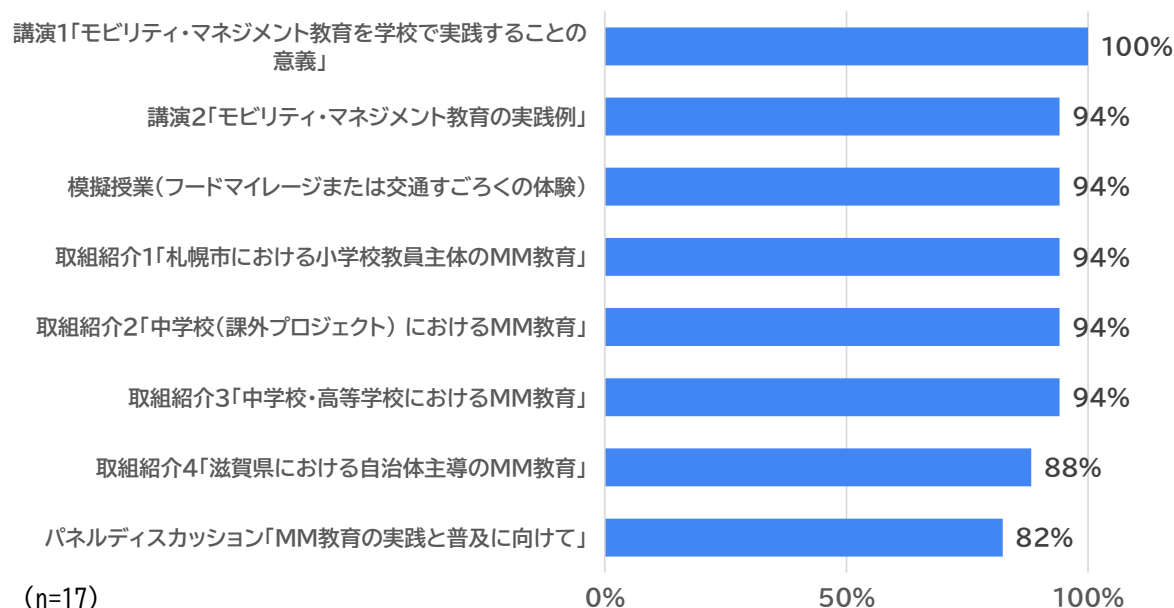
情報交換会を知ったきっかけは、半数以上が「エコモ財団からのメール配信」と回答している。「郵送によるお知らせ」は1名のみとなっている。

Q2. 本日の情報交換会の内容について、あてはまる場所を選択してください。



回答者全員が「有意義であった」と回答している。

Q3. 本日の情報交換会で有意義だったと思われるプログラムすべてを✓してください。



すべてのプログラムにおいて満足度の高いものとなっている。

Q4. 本日の情報交換会のプログラムで、より充実させてほしい点や、プログラムに追加・充実するとよいと思われる点等、ご要望について、お書きください。(自由記述)

内容について
・ 特定校の事例だけでなく、小中高にまたがった事例を知りたい
・ モビリティ・マネジメントの始め方を知れると良いと思いました。(自治体主導)
・ 小学校でのMM教育について、学校側からの自発的な動きを促すにはどうしたらよいか。出前授業のレベルを超えうれていない気がしている。
実施方法について
・ 会の最初に、エコモ財団で取り組まれているMM教育に関することの概要説明があれば嬉しい。
・ 個別の名刺交換会+質問の場の設定
・ 模擬授業が1種類しか体験できなかったのも、概要だけでも紹介していただけると良かったです。
時間について
・ 多様な立場・視点で具体的な事例紹介をいただけ、現場のリアルな声を聞くことができたのはとても参考になった。
・ パネルディスカッションは少し長いように感じた。
・ 取組紹介がもう少し長いとよいと思います。
・ 話が盛り上がると時間が足りないですね。
・ 意見交換会はもう少し時間があれば…
・ 各講演、紹介とも面白く、参考になりました。いずれも時間が短く感じましたので、もう少しそれぞれを深く話してもらえたら良かったと感じます。

Q5. 本日の情報交換会に参加されて、今後どのようにMM教育を実施しようと思われましたか。

(自由記述)

教員からの意見
・教育者に対する情報提供にとどめようと思いました。
・紹介いただいた事例を自分たちの取り組みに重ねて、改善の糸口にしていきたい。特に、札幌の取り組みは、京都市における MM 教育の展開を見通す上で、取り組みのマネジメントも含めて研究させていただきたい。
・車社会からの転換を環境教育と SDGs の観点と結び付けて実践中であるが、それをさらに増やせる機会としたい。
地方自治体職員からの意見
・より若い世代にも響くよう、授業の内容を見直しつつ、多くの学校との関係づくり、そして先生方、保護者へのアプローチも視野に入れた取組を進めていきたい。
・教員主体の MM 教育ができるよう支援していきたい。
・事業者や教育現場と連携できるようにしたいと思います。(実際に調整にむずかしさを感じます)
・ただの乗り方教室ではない、子どもたちの頭に残る、熱意ある教育が必要である。
・本自治体でも今後の取り組みに参考にしたいと感じました。行政主体ではなく、企業や学校との連携が必要だと感じました。
・ぜひ事例を参考にさせていただきたいと思います。
・関係機関との調整から始めてみようと思いました。
・路線バス運行エリアでの継続的な実施が必要である。
交通事業者からの意見
・MM と MM 教育は少し違う。NN 教育は MM だけでなく交通安全、交通マナー、バリアフリー等も包括した形で進化しており、交通事業者としては包括された取組の方が協同しやすい。
・MM 教育は公共交通が当然にあることが前提です。「乗って守ろう」的な考えから「担って守ろう」の取組を事業者としては取組みたいと思いました。
民間事業所からの意見
・自社の事業をさらに高めること、もう少し学校へとか変わりができたら良いと思っている。
その他の参加者からの意見
・一事業者として、MM 教育を手段として考えてしまうところがどうしてもありますが、子供にどのように教えることでより自身の学び行動にしてもらえるかという目的認識を忘れないように気を付けたいと思いました。また、MM教育を実施する場合には子供だけでなく教員や保護者に対してどうアプローチしていくべきかという点に気を付けたいと思いました。
・「MM 教育を手段ではなく目的にする」ことを重要視したいと思います。

- Q6. その他、本情報交換会において、何かお気づきの点、ご感想、ご要望、ご意見などありましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

ご意見・ご要望
・ 事前に質問を募集されるなら、触れていただきたかった。
・ 貴重な機会をありがとうございました。年に一回、このような機会があるとありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。
・ オンライン配信もお願いしたいです。
・ 交通事業者と学校等教育関係者との交流の場があるとよい。
・ 次年度はぜひ発表の機会をいただければありがたいです！！
・ 路線バスのないエリアでコミュニティバスを運行しているが、首長の政治的な動きで高齢者無償化を実施したためキャパに対して課題な乗客が発生している。サービス水準をどうすべきかむずかしい。
ご感想
・ 今回はご案内していただき、誠にありがとうございました。MM教育がどのようなものであるかあまり知らない状況で参加させていただきましたが、本当に色々なことを学ばせていただきました。特に松村教授の説明で、地元のバス利用者が増加したというエピソードを聞いた時は正直驚きました。また、このような機会があれば是非参加させていただきたいと思いました。
・ 大変良かったです。
・ 様々な立場の方からのご意見を伺うことができた点が良かったです。
・ 有意義な時間となりました。ありがとうございました。